

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE



vol. 42 2016年12月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203

nf-staff@netlive.ne.jp

<http://nofence.jp/>

INDEX

往く年を送り，来る年を迎えて 2

特別講演 池明観（TK生）氏「今こそ北朝鮮を語る」—— 12.21 NO FENCE 集
会報告 3

北朝鮮人権侵害アカウンタビリティー専門家グループへの回答 7

北朝鮮政治犯収容所の人道犯罪を裁く国際模擬法廷（2016年12月8日ワシ
ントン）の陣容 8

12月8日ワシントンでの強制収容所を裁く模擬裁判についての聯合ニュース報
道記事（金セジン特派員）から紹介 9

VOA記者の裁判長ナビ・ピレイ女史へのインタビュー（12月14日） 10

本年はたいへんお世話になりました。
2017年もよろしく願っています。



往く年を送り，来る年を迎えて

代表 小川晴久

たぶんこの会報は新年に届くと思いますが，どうしても2016年中に発行したいと思えました。

今号はいつもよりページ数が多いかと思えます。報告記事ばかりですが，簡単に説明を加えます。

1つめの記事は，12月21日にNO FENCEが開いた集会の報告です。

2つめの記事について。去る9月に国連人権理事会の第3代北朝鮮人権問題特別報告者キンタナ氏（アルゼンチン出身）の下に2人の専門家が任命され，11月29日に東京の国連大学で意見聴取がありました。2人の専門家とはソーニヤ・ビセルコさん（前COI委員，セルビア出身）とサラ・ホサインさん（バングラディッシュ出身）。4つの質問が出されていて，専門家グループに回答を提出しました。

他の3つの記事は，12月8日ワシントンで開かれた北朝鮮の政治犯収容所（強制収容所）の人道犯罪を裁く国際模擬裁判に関連するもので，NO FENCEの課題を実現するうえで，とても注目すべき模擬裁判でした。前後7時間に渡るもので，NO FENCEのホームページの「ビデオ」サイトからその動画にアクセスすることができます（裁判長ピレイさんの挨拶は開始14分頃，姜哲煥氏の証言は53分ごろ）。

<http://nofence.jp/video>

裁判長のナビ・ピレイさんが裁判後のインタビューに答えているように，国際社会の指導者たちに北朝鮮の隠された政治犯収容所のひどさに注意を喚起するもので，COI報告にある閉鎖の勧告に積極的に沿うものです。この模擬裁判を機に国際社会の目は北朝鮮の強制収容所に向かうものと思われます。NO FENCEにとっては追い風です。

ピレイさんに感謝しつつ，新年を迎えたいと思えます。一人でも多くの人に収容所体験者の手記を読んでもらうように，私たちも再読しつつ，がんばりましょう。

特別講演 池明観（TK生）氏「今こそ北朝鮮を語る」

—— 12.21 NO FENCE 集会報告 ——

代表 小川晴久

暮れも押し詰まった12月21日、TK生氏として知られる池明観先生(92歳)に「今こそ北朝鮮を語る」と題してお話をしていただいた。たいへん貴重なお話であったので、以下、要点をご報告する。

1 強制収容所体験者の2つの手記を読んで

私は平壤と国境の新義州の真ん中にある定州で生まれた。この1週間で、依頼された2つの手記——姜哲煥・安赫共著『北朝鮮脱出』上下（文藝春秋）と安明哲著『彼らは泣いている』（邦訳『北朝鮮絶望収容所』の原本）——を初めて読んだ。自分がこの日本にいるのに、この東京にいるのに、自分の部屋にいるのに、まるで自分が強制収容所の中にいるような気持ちになり、そこから抜け出すのに何日もかかった。ここに書かれていることはすべて事実であると考える。

2 解放直後の北朝鮮の状況

全く予期しない形で解放（1945年8月15日）を迎えた。解放はにわかに与えられた。2つの勢力が形成された。1つは曹晩植（チョ・マンシク）に代表される民族主義者たちの建国準備委員会（右翼）、もう1つは共産主義者たちの人民委員会（左翼）。曹晩植たちは民族の統一を志向した。人民委員会（左翼）はまず北半部を共産主義で打ち固め、それに依拠して南を解放しようとした。学生たちは左翼に抵抗し、即時南北の統一を志向した。

曹晩植は1946年初めに逮捕され、消されて行き、急速に左翼の天下になった。

解放後いち早く赤衛隊が組織されたが、なんとその隊長は解放前の国民学校の同僚教師で、日本人校長に最もおべっかを使っていた人物であった。彼は校長からオーバーを略奪した。人間がこうも簡単に豹変することに私は絶望した。

3 人民学校の教師を辞任

私は解放前から国民学校の教師をしていたが、解放後教室に上海臨時政府の金九や李承晩の肖像を掲げ、彼らを讃える教育をした。しかし、1946年に入り、国民



学校は人民学校に名を変え、人民委員会から、金九や李承晩の顔を戯画化（漫画化）し、彼らを罵るようという指示が下りてきた。私はそれに従うことができないので、辞職することにした。

私は子どもたちの前で辞職する理由を述べた。尊敬している2人の独立運動の指導者を罵ることはできないからと。子どもたちは一斉に泣きだした。共産党の幹部の子どももいたのに、誰一人私を人民委員会に訴えなかった。そこには政治以前の人間の美しさがあった。

4 1946年9月に金日成大学に入学，教育学を学ぶ

できたばかりの金日成大学には、南から北上してきた左翼の先生や学生たちがたくさん来ていた。しかし彼らは人民委員会の政策に不満を覚え、それを口外したために、追放されていった。また大学の中に共産党の細胞ができ、教師や学生たちを批判し、追放していった。クラスの中に地主の子弟がいるから追放せよと決議した。挙手しなかったのは、私一人であった。

5 1947年3月南に移る

私はクリスチャンであったし、身の危険が迫っているとある友から強く勧められ、南に移った。叔父は北で捕らえられ、拷問を受けて処刑されている。その家族の消息はいまだにわからない（註：池先生は早くから父を亡くし、母一人子一人の貧しい生活

であった。お母さんは熱心なクリスチャンであった。お母さんは後に南に移動)。

南に移って1年間小学校に勤め、その後ソウル大学に入る。南に移った時、朝鮮戦争の始まる前、南北双方に幻想があった。北の良心的な人は南に憧れ、南の良心的な人は北に憧れていた。私は南に来て非常に複雑な気持ちになった。

間もなく1950年6月朝鮮戦争が起こり、私は死を覚悟して南方に逃げた。そのうち軍隊に編入され、5年間軍隊勤めをする。アメリカ人将校の通訳の仕事をするようになり、韓国人軍人幹部のひどさ・腐敗をたくさん目撃する。

6 4.19革命の後、5.16で軍人政権が誕生する

南であれ、北であれ、理想的な政治勢力は敗北せざるをえなかった。軍人政権ができた時、私は一切期待しなかった(註:ソウル大の学生たちは当初期待した)。なぜなら朝鮮戦争の中で軍の幹部がいかにも嘘をつきひどいことをするかを見聞していたから。

軍人政権(勢力)は徹底して北を批判する。自分の不正を隠そうとして北の欠点を批判しつづける。相手の悪しきところを批判して、自分の不正を正当化する。したがって北の不正を指摘すれば、軍事政権(反共勢力)に加担することになることを良心派は恐れた。

また軍事政権を批判する者はアカ攻撃を受けた。しかしキリスト教勢力は赤(アカ)と言えないので、民主化勢力はキリスト教勢力が中心となった。

7 民主化勢力が分裂

民主化勢力は2つに分裂した。先統一後民主化と先民主化後統一に。私は後者に属した。私は軍人たちが天下を取るとろくなことをしないから、まず民主化が必要と考えたのである。

マンネリズム的な左派か右派かではなく、もっと成熟した、真に民主的な勢力になれなかったのはなぜであろうか。東西ドイツの例を見よ。西ドイツは東を経済的に援助しながら、東との関係を絶たなかったではないか。

8 東アジア市民連合への期待

私は政府を信じない。彼らは東アジアの平和を考えることができない。東アジアは半世紀以上ヨーロッパに遅れている。1942年12月26日ポーランドの亡命政府の首相が、イギリスで全ヨーロッパ連合を呼びかけた。その意味で東アジアの連合はかなり遠い道のりではあるが、私は市民に期待する。

9 何をなすべきか——4つの視点

- (1) 韓国の知識人たちに北の問題に関心を持ってもらえるように、どのようにイニシアチブを発揮するか。
- (2) 一人の犠牲者を出すことなく統一を実現することに努力する。
- (3) 北朝鮮に対する人権思想からのアプローチが大事である。なぜ家族が分断され、往来ができないのか（離散家族の往来は、政治以前の間人間関係の問題である！）。
- (4) 政治的立場から市民の立場へ（東アジア市民連合の道）

要旨をまとめて

1時間の中で以上の9点を語っていただいたので、時間の関係から、最後の4つの視点のうち注目される第1点につき、具体的な中身はお聞きできなかった。しかし、全体としてたいへん貴重な内容であったことは言を俟たない。

池先生は92歳の今日までがんばって生きてこられているので、解放後の南北朝鮮現代史の貴重な語り部であり、生き証人であられる。12月8日のワシントンでの北朝鮮の政治犯収容所（強制収容所）の人道犯罪を裁く国際模擬裁判を契機に、急遽池明観先生にお話をさせていただくことになった。ご高齢にもかかわらず、私たちの求めに応じていただけたことに、深く、深く感謝する。



北朝鮮人権侵害アカウンタビリティー専門家グループへの回答

NO FENCE（文責：小川晴久）

市民団体への4つの質問事項に番号を付し、番号ごとに回答します。

1. 国連人権理事会主催で北朝鮮強制収容所（政治犯収容所）を主題にした国際会議を早期に開くことを提案します。特にどのようにしたら廃絶できるか、その方法を主題にする国際会議です。複数回開催すればベストですが、もし1回しか開催できない時は、開催地はアウシュビッツのあるポーランドがよいと思います。以下、提案理由を述べます。

北朝鮮の強制収容所は北朝鮮のあらゆる人権侵害の縮図であり、根源であり、それゆえ北朝鮮の人々の恐怖の的です。そこには血縁的連座制で、裁判もなしに無実の人が多数囚われ、強制労働に従事させられています。金正日はその存在が外部に知られると父金日成の威信が損なわれると恐れて極秘にし、北朝鮮当局はその存在を一貫して否定してきました。しかし一昨年秋強制収容所の体験者の申東赫氏の父親を北はテレビに登場させ、息子の証言は虚偽であると主張させることによって、北朝鮮当局は間接的にその存在を認めました。国連はCOI報告とその勧告に則って、北朝鮮の反人道犯罪の巣窟である強制収容所の廃絶をめざす国際会議を早急に開き、国際的英知を集め、その廃絶の方法を討議・解明すべきです。廃絶の方法を主題にした北朝鮮強制収容所問題国際会議です。血縁的連座制をやめさせねばなりません。この連座制がなくなれば、北の若者たちは勇気をもって人権改善に立ち上がるでしょう。

2. 私たちNO FENCEは2008年4月に創設され、その会名「北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会」どおり、今日まで強制収容所体験者を招き、証言集会を開催して、その廃絶を訴えてきました。特に昨年12月には价川（ケチョン）14号収容所の数少ない体験者金龍氏を韓国から招き、その貴重な証言を聴きました。地獄を生き抜く方法は沈黙だけだというすごい証言でした。

3. 残念ながら、ありません。

4. 2006年に日本版北朝鮮人権法「拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律」が国内法としてできました。日本政府は固より各自治体も北朝鮮の人権侵害の内容を承知し、その解決のために努力する必要があることが定められました。公共放送NHKもこの法律の下にあります。NHKはまだ北朝鮮の強制収容所問題で国民を啓発する特集番組をつくっていません。そのため日本国

民・市民の北朝鮮強制収容所認識は低いままです。NO FENCEはその実現になお努力していきます。

これはマイナス面の制度的障害の指摘ですが、1959年12月から1984年まで実施された帰国事業で、日本から北朝鮮に「帰国」した9万3千余人の名簿を法務省、(厚生省)、日本赤十字社は所有していますが、プライバシーに関わるという理由で公開を拒んでいます。帰国者のうち2割が強制収容所送りされたと推定されています。日本人妻も1800人以上北に渡りました。50～60年以上も経っていますし、この人たちが北朝鮮で監視の対象になり、差別を受けた哀しくも残酷な歴史がありますので、これらの名簿は帰国者の人権と生命を守る立場から公開さるべきだと考えます。

北朝鮮政治犯収容所の人道犯罪を裁く国際模擬法廷(2016年12月8日ワシントン)の陣容

裁判長：ナビ・ピレイ（前国連人権高等弁務官、ルワンダ国際刑事裁判所裁判長）

裁判官：トーマス・ベルゲンタム（前国際司法裁判所判事）

裁判官：マーク・ハーモン（前クメールルージュ戦犯裁判所判事）

検事：スティーヴン・ケイ（前国際司法裁判所検事）、カースティー・サザーランド（女性）、グレッグ・ケホウ、フェデリカ・ダレサンドラ（女性）（以上4人は国際法律家協会戦争犯罪委員会のメンバー。前者の2人はミロシェヴィック裁判、ケニヤッタ裁判の検事）

証人：

姜哲煥（元ヨドック15号収容所体験者）

李ジョンホ（元北倉18号収容所管理員）

崔ヒョンジン（元国家保衛部職員）

専門家証人：

ケン・ガウス（報告書「強制、管理、監視、処罰——北朝鮮警察国家の診察」の著者、北朝鮮人権アメリカ委員会2012年7月刊行）

デイヴィッド・ホーク（『北朝鮮 隠された強制収容所』著者）

（参考）この裁判の報告書（判決か）は60日以内（2017年2月）に出る（ピレイ裁判長表明）。この裁判は世界に同時中継された。

（小川晴久作成）

12月8日ワシントンでの強制収容所を裁く模擬裁判についての 聯合ニュース報道記事（金セジン特派員）から紹介

脱北者出身姜哲煥北韓国戦略センター代表は、自身の「ヨドック収容所」強制収容所経験を中心に、北朝鮮政権によって運営されている残酷な政治犯収容所の実相を裁判部と弁護人団に伝えた。

「満9歳の時、名分もわからず、ヨドック収容所に引っ張られて行った」と淡々とした声で回想した姜代表は、弁護人団に参加したステーヴン・ケイ前国際司法裁判所（ICJ）検事がヨドック収容所の実情を説明してほしいと要求するや、「原始時代のような村で人々の死体が見えるびっくりするような情景の数々」であったと明らかにした。

姜代表は「収容所で長く生きようとすれば、3ヵ月が峠」であり、「その期間内に、蛇とか鼠、昆虫などを素早く捕まえて食べることができるようになれば、3ヵ月を乗り越えることができるため」と説明した。

またヨドック収容所の中にも収容者たちをはるかにひどく弾圧する「完全統制区域」があり、「そこに収容された男たちは、例を挙げれば、核実験用地下トンネルのような危険な工事現場に引っ張って行かれ、強制労働をさせられる」と証言した。

この日も模擬裁判に参加した別の脱北者たちは、身許が割れるのを恐れ、遮蔽幕の後ろで証言に立った。顔を見せぬ代わりに、北朝鮮の最高指導者たちが常習処刑を含む日常的な人権弾圧の最終責任者であると口を揃えて言った。

「2番証人」とだけ呼ばれたある脱北者は、自分が北朝鮮で政治犯収容所管理業務をしていた間、処刑を決定する「最終上部は金正日（前国防委員長）であった」と主張し、「3番証人」と呼ばれた別の脱北者は「金正恩（労働党委員長）がその気になれば、一日に10名であろうが20名であろうが、いつでも（処刑を）執行することができる」と語った。

平安南道北倉郡鳳倉里の「18号収容所」で管理業務をしたという「2番証人」は、自分が仕事をしていた時期に収容所に「約12万名」が隔離されていたと証言し、北朝鮮の核心権力機関中の一つである国家安全保衛部職員であったという「3番証人」は、2001年平安南道南浦で「金正日打倒」のビラの配布事件があった時に、犯人を探し出し、6ヵ月間すべての住民を対象に調査を展開したと紹介した。

北朝鮮の住民、特に政治犯収容所に収監された人たちには、基本的な人権は適用されず、大多数の北朝鮮の住民たちは韓国をはじめとする自由世界に一般化されて

いる人権概念を全く知らないでいると、脱北者たちは話した。

「2番証人」は上官から「移住民（政治犯収容所収容者たち）は殺すことができなく、石炭生産のために生かしておくやつらだと聞いた」と言い、「3番証人」は「北朝鮮の人たちは、人権とか自由が何かに対して、初歩的な知識もなく、私も、この場でなぜ北朝鮮の人々が人権侵害を受けているという言葉をつくのか、よくわからない」と付け加えた。

裁判部に参加したナビ・ピレイ前国連人権高等弁務官は、この模擬裁判の目的は「北朝鮮の政治犯収容所で起きていることとそれに関する政策、制度などが反人道犯罪に該当するか否かを判断しようと試みるところにあり、「事実と法律をはじめとするあらゆる状況を客観的に見渡してみるために、経験と専門性を発揮する」と語った。

マク・ハーモン前クメールルージュ戦犯裁判所裁判官とトーマス・ビケンダル前国際司法裁判所裁判官も、この日、模擬裁判に裁判官として参加した。

ピレイ氏は証人たちの証言が終わる時、「勇気をもってこの場に出て証言してくださいましたことに、裁判部を代表して感謝します」と述べた。

この模擬裁判は SAIS（ジョン・ホプキンス大学研究所）をはじめとして世界弁護士協会と戦略国際問題研究所（CSIS）など政策研究機関、米北朝鮮人権委員会と北朝鮮自由連合など北朝鮮の人権問題に取り組む市民団体など、10の機関が共同で主催した。

主催者側は、北朝鮮政治犯収容所の反人道犯罪者たちに責任を問うことのできる状況になった時に、法律的問題がないか注意して調べることが今回の裁判の目標であると説明した。

「2016年12月8日ワシントンでの北朝鮮政治犯収容所が反人道犯罪を犯しているか否かを吟味する国際模擬裁判」に関する重要資料

VOA 記者の裁判長ナビ・ピレイ女史へのインタビュー（12月14日）

ナビ・ピレイ前国連人権高等弁務官は北朝鮮政治犯収容所の反人道的犯罪と北朝鮮政権の政策との関連性を詳細に明らかにする計画であると話した。ピレイ前人権高等弁務官は、南アフリカ共和国上級法院の初の国際刑事裁判所の女性有色人種検事出身として、国際刑事裁判所（ICC）裁判官、ルワンダ国際刑事裁判所長を歴任した。特に人権高等弁務官時代に国連北朝鮮人権調査委員会の設立を主導した。金ヨングォン記者が最近ワシントンを訪問したピレイ前弁務官にインタビューした。

記者：去る 8 日ワシントンで開かれた北朝鮮政治犯収容所の反人道犯罪を扱う模擬裁判の裁判長を引き受けられました。この模擬裁判はどのような意義を持つものですか？

ピレイ前弁務官：国際弁護士協会がこの行事を主催して、調査を担当する専門家たちと 3 名の裁判官を設けました。また公開行事を通して北朝鮮政治犯収容所に関する証拠と証言をすべて聴きました。これを通してわれわれは正義と責任の追及の困難さを経験していること、最悪の犯罪が闇の中で長い間継続していることを知りました。ほぼ半世紀以上このような犯罪が継続しているのに、私の目には国連や国際的指導者たちの間ではあまりにも関心を持たれませんでした。この模擬裁判が重要なのは、ついに北朝鮮政権の政策と法が政治犯収容所運営と直結していて、これが反人道的犯罪に該当していることを法的に提起する出発点であることです。

記者：ピレイ前弁務官が在任時代に設立を積極的に支援された国連北朝鮮人権調査委員会（COI）は最終報告書で、北朝鮮内で反人道的犯罪がほしいままにおこなわれていると明らかにしました。報告書とこの模擬裁判とはどのような違いがありますか？

ピレイ前弁務官：国連北朝鮮人権調査委員会報告書は、北朝鮮の中のあらゆる人権蹂躪問題を扱っています。反面私たちの模擬法廷は政治犯収容所の反人道的犯罪だけを扱います。収容所内ではあまりに多くの人権犯罪が恣行されています。私は国連人権高等弁務官在任時代に既にこれに対して深い憂慮を明らかにしました。今や北朝鮮政権の人権蹂躪がなぜ反人道的な犯罪に該当するかをあらゆる国際法を動員して明らかにすることです。こうしてこそ正義と処罰を追求することになります。

記者：具体的に国際社会の指導者たちに何を促すつもりですか？

ピレイ前弁務官：まだ初期段階であるために詳細な内容を明らかにするに至ったと見ます。私たちが踏む手続き一つ一つが、国際的指導者たちの関心を喚起するためのものでしょう。今回の模擬裁判もその過程の一つです。私の生涯をふりかえてみると、一步を踏み出すごとに、そこにふさわしい手続きとマッチする（世論の）声がありました。もし私が国連人権高等弁務官在任中に北朝鮮の人権問題を国連人権理事会に核心事案として要求しなかったなら、国連北朝鮮人権調査委員会は設立が難しかったでしょう。今回の模擬裁判も同じです。そのうえ今回の裁判はインターネットで全世界に中継されました。また裁判を盛り込んだ映像を北朝鮮の住民たちに送る予定であると聞いています。このような過程の一つ一つがあらゆる北朝鮮の人権改善を進める手続きだと考えます。

記者：公開模擬裁判は終わりました。これからどのようなことをされますか？

プレイ前弁務官：私たちは公式的な司法裁判官ではありません。ただの合議体（panel）です。しかし経験の豊富な前職裁判官たちが証拠類を非常に慎重に検討して結果を発表する点では、この過程は有益です。私は（国際司法裁判所裁判官であった）トーマス・ビケンダル前裁判官とマーク・ハーモン前カンボジアクメールルージュ戦犯裁判官と共に、60日以内にその結果を盛り込んだ報告書を発表いたします。北朝鮮政治犯収容所の中でおこなわれているどのようなことが具体的に反人道的犯罪に該当するかをととても詳しく作成する計画です。

記者：模擬裁判に出席した脱北者出身の証人たちは、異口同音に北朝鮮の住民たちが本当の民主主義や人権の概念すら知らないことが問題だと指摘しました。だから被害を受けても、それが問題であることすら知らないと言っています。戦犯裁判官と国連人権高等弁務官をしてきた方として、北朝鮮の住民たちにどのようなメッセージを伝えたいとお考えですか？

プレイ前弁務官：どんな人も人間が当然持つ基本的権利があると伝えたいと思います。模擬裁判に出席した証人たちが証言した、収容所内で経験した肉体的、精神的苦痛はすべて人権違反であり間違ったことです。彼らもそれを感じわかっています。このようなことは神が人間に賦与して教えてくれたものではありません。したがってわれわれは世界人権宣言に依拠した正しい事実を人々に教え伝えねばなりません。私の祖国である南アフリカ共和国もある時、有色人種差別政策であるアパルトヘイトのために多くの被害を受けました。われわれは被害者でしたが、人権を知らなかったために、何も言えませんでした。人権弾圧を企てる者たちと政府権力は私たちに人権を教えませんでした。今はどうですか？ 南アフリカ共和国の住民すべてが人権と民主主義を自由に語ることができ、その権利を主張することができるようになりました。このような変化が北朝鮮でも可能です。われわれが国際社会と北朝鮮住民たちを互いに連携させ、人権が何であるかを北朝鮮の住民たちが知ることのできるよう手助けできたなら、われわれは今とは違う北朝鮮を見ることができるようでしょう。

（小川晴久訳）